



## 善い行いは陰で積もう

道徳で信頼貯金などいろいろと教えていただいたようで、家でも「フワフワ言葉って知ってる？チクチク言葉って知ってる？」という話が子どもから出てきました。

また、昨日夜頭痛がして横になっていたら「大丈夫？」と何度も心配してくれて「そばにいる」と横にいてくれて「そんな優しいことをしてくれるようになったのか?!」と感動しました。

また、普段は言ってもあまりそろえないくつを家族の分揃えて「みてみて～だれがやったんかな？ぼくじゃないけど～」と言っていました！

これからも道徳の授業を時々思い出してこのような行動が続くといいなと思います。

PN.「にんげんだもの」さんより

優しい言葉を掛けたり靴をそろえたり。

素敵な心遣いの姿が目浮かぶようで、大変微笑ましく読ませて頂きました。

特に見えないところで靴を揃えたエピソードが素晴らしいですね。

1年生なので難しい言葉は出来るだけ控えつつ伝えているところですが、「利他の行い」や「善行」などの素敵な取り組みは、「見えないようにするのがさらにカッコいい」ということを伝えました。

いわゆる「陰徳」のことですが、この言葉だけでは伝わらないので、「いいことって見えないようにすると更に沢山の信頼貯金が貯まるんだよ」という形で道徳では扱いました。

ちなみに「陰徳」は、小学校の辞書にもちゃんと載っています。

## 陰徳：人や世に知られず、ひそかに行う善行。

これは、銀行業界の元祖である安田善次郎が、幼いころから父親に叩きこまれた言葉でもあります。

「人に褒められようとして善行を施すのではなく、誰にも知られずとも人のためになることを黙々と行おう。」  
ということです。

陰徳を積むことは、いわば天への貯金です。

これは、実業家や経営者だけでなく、その道の第一線を走る人たちが積極的に行っていることでもあります。

「運をつかむ」という言葉がありますが、陰で良い行いをすることが結果的にめぐりめぐって自分の力を大きく開花させることを、先人たちは知っていたのでしょ。

しかし、こうしたことは、教えなくては出来ない場合がほとんどです。

自然と出来るようになる子は、むしろ少数派です。

だからこそ、明確に中身や方法を伝え、できた時に認め褒めることが大切だと思っています。

ちなみに「天への貯金」や「信頼貯金」のような話は、何も最近になって世の中で言われ始めた事ではありません。

何百年も前から、日本だけでなく世界中で受け継がれてきたことです。

日本語に限定しただけでも、関係している言葉がこれだけあります。

因果応報 自業自得 身から出たサビ 自分で蒔いた種 ツケが回って来る

上の語群は、今ではたいてい悪いケースに使われます。

しかし、元々の言葉の意味は違います。

例えば因果応報という言葉。

「原因」に合った「結果」が訪れる、という意味の言葉です。

その原因には、2つあります。

よい原因を「善因」、悪い原因を「悪因」といいます。

善因には良い結果が現れ、悪因には悪い結果が現れる。

ですから、因果応報は「善因善果」「悪因悪果」とも表現されるのです。

自業自得も同じです。

自業は、「自分の行い」という意味です。

自分の行いによって、結果が変わるという意味です。

良い行いには良い報いが、悪い行いには悪い報いがあるということです。

身から出たサビは、「刀」から生まれた言葉。

普段は切れ味の良い名刀も、手入れを怠ればたちまちサビてしまいます。

刀を心に見立て、自分の行った悪い行いによって自分自身が苦しむことがあるという意味がこめられました。

でも、手入れをすれば問題ありません。毎日磨くという行いこそが、善行を積むことであり、陰徳を積むことであるのでしょう。



教室でも、教室以外でも、子どもたちの陰ながら善い行いを積む姿が日毎に増えてきています。

そんな姿をご家庭でも見つけた時は、ぜひまたお知らせください。

子どもたちの内なる成長を、また共に喜べたらいいなあと思っています。

私も負けずに陰徳を積みたいと思います。

(文責：渡辺道治)

[1 学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](https://www.google.com)